令和6年度 第3回 福井県長期ビジョン推進懇話会　議事録

1 日　　時　令和６年11月21日（木）15:00～16:30
2 場　　所　ハピリン3階 ハピリンホール
3 出席委員　委員名簿のとおり
4 事 務 局　福井県知事 杉本 達治
事務局：福井県未来創造部 部長 武部 衛
〃　　副部長 田中 秀和
〃　　未来戦略課 課長 松村 仁史　他
5 配布資料 別添のとおり

6 議事の経過および結果

（1） 開 会

・知事あいさつ
・座長あいさつ

<座長あいさつの概要>

［座長］

・嶺南、丹南、奥越などは単なる地域区分ではなく、多様な地域が個性を発揮することにより、福井の総合力が高まっていく。
・こんなに豊かな歴史、文化、自然を持っている県はないので、トータルに発揮できるようにするとよい。
・福井はとんがっている人を排除する気風があったが、県民が主体的に頑張れるような県にするため「とんがろう」という言葉を１期目で使った。2期目でも「とんがろう」を使うかどうかは今回のテーマとしたい。

（2）事務局説明

【資料2】により事務局から説明

（3）意見交換

<出席委員の発言概要>

［座長］

・カタカナ言葉はわかりにくい面もあるので、括弧書きを入れるなど配慮ができると思う。
・明るいことだけ言うでなく、社会的弱者などについてもフォローする必要がある。行政の方向性、システム、姿勢の変更を促すことも必要

［委員］

・前回の懇話会では多様性、寛容性に関する意見があったが、「とんがろう」がゴールの決まった統一化されているものととらえられると、その人らしさと相反してしまうという違和感がある。
・それぞれのとんがっている部分を引き出していくことが大事。自分らしさを受け入れること

を引き出せるものがよいと思う。
・「都会以上の生活水準」には賛同するが、洗練されている都会を目指すということなら違和感がある。都会にない、福井にしかないものが何かが盛り込まれるとよい。
・デジタル化が進み、デジタルとリアルの境目がわからなくなることを懸念しているが、土に触れたり自然を見たりして人間らしさを取り戻せるものを残しているところに福井らしさがある。
・幸福感は刺激だけでなく、都会の人が福井に来た時に安心感、安堵感を感じてもらえると、何回も来てもらえたり、移住や関係人口の受け皿にもなると思う。

［委員］
・「とんがろう」は軽いイメージがあったが、１期目は、これまで打破できなかった殻を破り、横並びの価値観から個性を発揮しようという意味があると捉えていた。ただ、2040年までずっと「とんがろう」のままでよいかは少し考え直してもよいのではないか。
・多様な個性を認め、それぞれが自分らしく生きていけることが大事。
・「活躍」、「とんがる」はキラキラしすぎて、自分はそうではないと思ってしまう人もいるかもしれない。それぞれの自分らしさが許容されるというメッセージがよい。
・全体としてカタカナ言葉が多い。自分事にしてもらうには、もう少しかみ砕いて、自分のことだと思える言葉が散りばめられているとよい。注釈や用語集があってもよいが、小学校高学年から中学生レベルで納得できる言葉の方が良い。

［委員］
・カタカナ言葉が多すぎると「ダイバーシティ」、「エキサイティング」など大事な言葉が薄れてしまう。日本語でよい言葉は日本語にして、この言葉を大切にしようというカタカナ言葉を大切に出すというメリハリが大事。
・「地味にすごい」もよいのだが、そこから一皮むけた福井を「とんがろう」と表現するのは、ストーリー性もあって良いと思う。

［委員］
・「自己解放」、「ありたい自分で楽しむ」という言葉はどうか。
・自己肯定感が高ければもっと前に出られる。特に、女性の自己肯定感が低く、自分でラインを決めてしまっていると感じる。女性だけに限らず、組織の中で意見を出せるようにすることが大切。「自己肯定感を上げる」、「自己解放をする」というイメージで、第１期から第２期でステップアップしているという印象が残せるとよい。

［委員］
・真面目に意欲のある人への県の支援は多く、障がい者や生活困難者などへの支援も手厚いが、弱者ではないグレーゾーンの人への支援が弱いと感じる。特に、発達障害の子が生徒数の多い学校に多く、通級の支援が回りきっていない。得意なことや能力が特化した子が集中して学びを楽しめるための支援が足りていない。民間や専門の講師によるカリキュラムが増えるとよい。
・女性管理職がコミュニケーション、モチベーションなど、人に対する接し方で悩んでいる。

県でも様々なセミナーを行っているが、学びたい女性が学びに辿り着けないことがあるので、企業に向けて発信してほしい。

［座長］
・日本の教育は同調圧力が強いが、今は多様性の時代。海外ではホームスクーリングの例もある。平均を求める今の社会の価値観を変えなくてはいけない。

［委員］
・1 期目で「とんがろう」が出てきたときは驚いたが、「とんがろう」という言葉は、自分らしさを出す、興味関心のある所に目を向ける、といった意味で使われており、わかりやすく、コンパクトに色々なことが凝縮されていると思う。
・「とんがろう」はインパクトが強いので、そのまま使ってもよいと思う。

［委員］
・昨今、介護士や保育士など福祉の人材不足が課題となっており、令和 4 年に外国人を初めて受け入れた。
・タイとミャンマーで約60名が配属されているが、初めての経験で課題が見えてきており、外国人の福祉参加を支援してほしい。

［委員］
・「とんがろう」という言葉が出てきた背景として、ウェルビーイング調査の中で福井は寛容性の数値が低かった。寛容性を高めるために「とんがろう」という言葉が出てきており、みんながとんがるのではなく、「とんがっていい」という意味であると理解している。
・モビリティ―の分野など、とんがらないとできない領域がある。交通格差が教育格差、住民サービス格差に広がる可能性を秘めており、とんがって取り組む必要がある。
・幸福度調査の中でも、お年寄りは5年後の幸福度の方が下がっており、それは免許を返納した時に生活できるのかという不安が要因となっている。とんがらないといけない領域があるので「とんがる」という言葉があってもよい。

［委員］
・全国にあまり例のない仕事をしている中、また以前働いていた女性が多い業界で働く中で、個人的には「とんがろう」という言葉に助けられた。
・ただ、「とんがろう」は言葉が強く、頑張らなくてはいけないというメッセージにも取れるので、「磨く」、「自分の持っている強みを生かす」というようなニュアンスの言葉にできないか。「ブラッシュアップ」の方がしっくりくるかもしれない。
・「とんがろう」は意味合いとしてはすごくよく、「守破離」のように飛び出そうという人にはありがたい言葉

［委員］
・「とんがろう、楽しもう、ふくい」はとても良いと思う。コンセプトは短く方向性を示すものなので、誤解が出るのは仕方ないが、「基本的な考え方」でしっかりフォローされている。

・懇話会の議論の中で「寛容性」がキーワードとして出てきており、自分らしさの「発揮」に「認め合う」というところをプランの中にもう少し盛り込まれるとまとまりが良くなると思う。

［委員］
・「百花繚乱」、「百花斉放」といった言葉を世界がどう表現しているかという視点で置き換えてはどうか。

［委員］
・「とんがろう」という言葉は好き。今まで女性の地位向上に携わってきたが、出る杭が打たれるので隠れているという状況から、「とんがっていいのだ」という状況に変わると、地域のコミュニティもとんがった人を集め、生涯活躍の多様な場を作っていくことにもつながるので、つながり面からも「とんがろう」はよいと思う。
・幼稚園で正座のことを「お母さん座り」と言っていたことがあり、アンコンシャス・バイアスを実感した。

［委員］
・「とんがろう」は福井県の価値観として好き。福井県は他の都道府県よりも目立ちたいという気持ちがあるとよいと思う。
・長く福井県に住む外国人に福井県民に伝えたいことがないかと聞いたところ、半分以上の人の答えが「福井県民は誇りをもって」であった。
・全国で目立つだけでなく、世界でも目立ち、福井はよい職場であると目立てば、ミャンマーや東南アジアから外国人が来てもらえる。観光客も来る。
・とんがろうに一番近い英単語は「rebellious」。周りと違うという意味もあるので、福井県はそれを目指してもよいと思う。

［委員］
・寛容性や自己肯定感、自己解放なども含めて「とんがろう」という言葉であることが一般の人にわかるようにするとよいと思う。
・「保育士」という言葉が資料で使われているが、認定こども園では「保育教諭」という言葉を使っており、まとめて「保育者」という表現に変更してほしい。
・福井県保育連携協議会ができて、行政、養成校、保育にかかわる団体などが集まり、様々なことが具体的に決まってくる流れができている。「チーム福井」で行政、関係団体が集まって次に進む流れができてありがたい。

［座長］
・ともに進めるためのコーディネーターが必要という指摘は非常に大事だと思う。

［委員］
・今日、「とんがろう」についてこれだけ熱い議論があったということをどこかに記録し、県民に「とんがろう」がこれだけ深い意味なんだよということが分かるように解説を入れてはど

うか。

［委員］
・地域にあるものを掘り起こし、見える化することが大切だと思う。

（4）閉会